

令和五年度 家族で古文書にチャレンジ

古文書というと、皆さんはどんなことを思い浮かべますか。「古くて、関わりがない」「くずし字が難しくて読めないし、意味が分からない」など、取っつきにくいイメージがあるのではないでしょうか。

しかし、少しでも読めるようになると文書の意味が分かり、先人の暮らしについて関心がもてるようになります。

このテキストは、古文書に親しんでいただくことを目的として、辞書がなくても解けるように工夫されています。家族と相談しながら、いっしょに読んでみませんか。

今はくずし字に触れる機会が少なくなってきました。毛筆で文章を書くことがほとんどないからです。

しかし、身のまわりをよく見ると、くずし字を使った看板、商品名などがあることに気づきます。

その多くは「変体仮名」を使っています。

わたしたちは、ひらがなを普段何気なく使っていますがこれらは明治三十三年（一九〇〇）の小学校令施行規則によって定められたもので、「あ・い・う・え・お」のような「ひらがな五十音」となります。この時、採用されなかったその外のひらがなは「変体仮名」と呼ばれて、今でも店の看板や商品の名前などに用いられています。次の変体仮名を読んでみましょう。元の漢字を手がかりにしてみてください。答えは次のページにあります。

元の漢字

阿

元の漢字

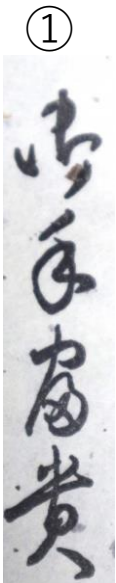
愛

元の漢字

悪

前のページの答えは、「あ」です。
 ひらがな五十音の「あ」は「安」が元の漢字です。これをくずして「あ」になりました。これ以外のひらがなとして、あ か え などとも使われていたのです。

次にわたしたちの身のまわりにある「変体仮名」を集めてみました。それぞれ何と読むのでしょうか。空欄にあてはまる文字を入れてみましょう。次のページに掲載した「変体仮名」の一覧を手がかりにしてみてください。

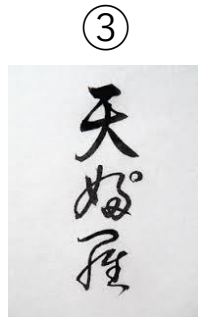


御
手
富
貴

(ふ)



御
手



天



生



う



か		ら	や
---	--	---	---

「変体仮名」の一覧①

越	王	羅	茂	婦	者	仁	登	楚	貴	変体仮名
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	------

越	王	羅	茂	婦	者	仁	登	楚	貴	元の漢字
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	------

ヲ ツ	ワ ウ	ラ	モ	フ	は	ニ	ト	ソ	キ	音訓
--------	--------	---	---	---	---	---	---	---	---	----



を	わ	ら	も	ふ	は	に	と	そ	き	読み方
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

二ページの答え

- ① 御手富き (手を拭く布巾 富は変体仮名ではない)
- ② 御手もと (箸のこと)
- ③ 天ぷら (料理名 婦(ふ)の半濁音で「ぷ」と読む)
- ④ 生そば (料理名 者(は)の濁音で「ば」と読む)
- ⑤ かわらや (店名)
- ⑥ うをに (店名)

それでは、変体仮名が多く使われている百人一首を読みましょう。出典は、明治三十年(一八九七)七月九日に発行された『小倉百人一首』(内藤彦一編輯)です。



はじめは、在原業平（ありわらのなりひら 八二五〜八八〇）の和歌です。在原業平は平城天皇の孫として生まれましたが、在原朝臣姓を賜って貴族となります。天皇の近くで重要な文書を扱う蔵人所（くろうどどころ）の長官に就きました。歌人としても有名で、勅撰和歌集に八十七首も選ばれました。変体仮名が含まれる在原業平の和歌を読んでみましょう。次のページに掲載した「変体仮名」の一覧を手がかりにしてみましよう。

在
原
業
平
朝
臣

千
早
振

神
代
も

つ

か
ら

水
ゝ

千早振（ちはやぶる）は、神の威力があるという意味の枕詞です。神や宇治にかかります。「神代」が続くのは、そのためです。

「変体仮名」の一覧②

類	耳	為	奈	多	堂	春	可	変体仮名
---	---	---	---	---	---	---	---	------

ルイ	ニ	ヰ	ナ	タ	タウ	シユン	カ	元の漢字
----	---	---	---	---	----	-----	---	------

る	も	ゐ	な	た	た	す	か	音訓
---	---	---	---	---	---	---	---	----



る	も	ゐ	な	た	た	す	か	読み方
---	---	---	---	---	---	---	---	-----

在原業平朝臣

千早振

神代もきかず

たつた川

からくれなみに

水くゝるとは

和歌の意味

不思議なことが多かった神代でも聞いたことがない。竜田川（奈良）が、水を真っ赤に染めるとはこの和歌は、川が紅葉で唐紅色に染め上げられていることを詠んだものです。

竜田揚げという料理があります。ころもの赤くなる様が、紅葉に染まる竜田川に似ていることが、名前の由来と言われます。

次に猿丸大夫（さるまるたゆう）の和歌を読んでみましょう。



猿丸大夫は、三十六歌仙の一人です。生没年は不明で、出自についても謎が多い人物です。大夫は、五位以上の官位を得ている人のことを言います。三十六歌仙とは、藤原公任（ふじわらのきんとう）が『三十六人撰』に載せた、平安時代の和歌にすぐれた人たちのことを言い、猿丸大夫の和歌は、後世に知られていたことが分かります。

猿
丸
大
夫

奥
山

も
み
ち

な
く
鹿
の

ぞ

秋
は

「変体仮名」の一覧③

し	な	か	き	ゑ	け	わ	に	変体仮名
---	---	---	---	---	---	---	---	------

之	那	可	起	恵	遣	王	丹	元の漢字
---	---	---	---	---	---	---	---	------

シ	ナ	カ	キ	エ	ケン	ワウ	に	音訓
---	---	---	---	---	----	----	---	----



し	な	か	き	ゑ	け	わ	に	読み方
---	---	---	---	---	---	---	---	-----

猿
丸
大
夫

奥
山
に

も
み
ぢ
ふ
み
わ
け

な
く
鹿
の

こ
ゑ
き
く
と
き
ぞ

秋
は
か
な
し
き

和歌の意味

奥深い山で、散って敷き詰められた紅葉を踏み分けて鹿が鳴いている。この声を聞く秋は、なんと物悲しいことか。

古文で「係り結び」を学びますが、「ぞ」という強調の係助詞を用いると、これを受ける文末の活用語は連体形になります。この和歌では、「かなし」（形容詞）の連体形「かなしき」で結ばれています。

「変体仮名」について興味をもてましたか？

元の漢字を知っていると、読み方はすぐに分かってきます。今でも看板や料理の品書きなどに「変体仮名」を使うことがあります。夏休みの研究で調べてみてはいかがでしょうか。次の言葉は、一覽に挙げた文字を組み合わせたものです。

どんな読みになるかチャレンジしてみましよう。

① 𪛗𪛘𪛙𪛚

② 𪛗𪛘𪛙𪛚

③ 𪛗𪛘𪛙𪛚